

## ■ 研究所だより

須賀 貴子

私に関わっていた事業所が厚生労働省の中間的就労のモデル事業に選定をされました。事前ヒヤリングの準備では、所長やエリアマネージャーとともに「中間的就労とは何か」を話し合い「そもそも、私たちの現場は中間的就労の場なのか」「一般就労に向けた支援の場なのか」「事業所として立ちあがり、立ち上げメンバーも組合員として働いている…」といった意見が出されました。長期失業や就労困難な若者など基金訓練受講生が仕事おこしの主人公となり、一緒に働く仲間として事業を立ち上げそして事業所運営を行っています。ふと気づけば、私自身が仲間に支えられながら働いていました。多様な人が集まるからこそ、その違いのなかでそれぞれの特徴が引き出され、認め合いながら共に働き変化していく。入団して2年半。「よい仕事とは何か」を常に自問自答しています。「よい仕事」を一言で表現することは容易ではありませんが、私自身の変化は仲間との「よい仕事」によって支えられていたと改めて感じています。

この「中間的就労」とは何か。生活保護受給者の自立支援に先進的に取り組んでいる北海道釧路市においては、今年、中間的就労から社会的企業の可能性が打ち出され

ました。地域で仕事をおこし、そこに関わる全ての当事者が「支援する－される」という関係ではなく、共に働く仲間として多様な関わり合いのなかで、一緒に変化していく。ワーカーズコープの仕事おこしや現場は、厚労省が生活支援戦略のなかで打ち出した「中間的就労」という経済的自立の過程としての場よりも、人が暮らしていくうえで欠かせない営みの一つでもある「働く」ということを通じた自立や自尊心の回復の場なのではないでしょうか。ワーカーズコープが、全国で広がりを見せている生活保護関連事業の担い手となりうる可能性とその意味を今後、考えていきたいと思えます。

よい仕事全国研究交流集会の冒頭、古村労協連専務から「最強の現場・事業所のための最強の本部づくり」という提起がありました。私たち、協同総研は「最強の現場・事業所づくり」のために何ができるのか。急速に広がる生活保護関連事業や放課後等デイサービス、そして、FECを柱とした総合福祉拠点づくり、経営改革にどう立ち向かうのか。現場・事業所を常に身近に感じながら、協同労働、労働者協同組合の可能性を探っていきます。